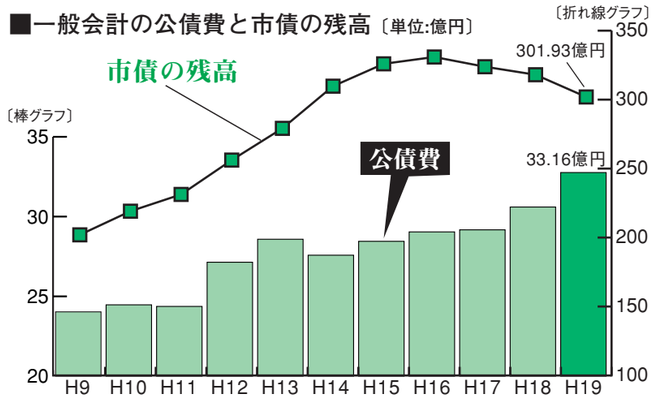
特集　平成19年度 予算

限られた財源を有効に使う

平成19年度の予算が決まりました。
厳しい状況ではありますが、市税の増加や借入金の残高の減少など、健全な財政運営に向け、好転の兆しが見える予算となりました。
今月は、その予算の内容についてお知らせします。

平成19年度の一般会計には、学校教育の支援や小学校の外国語教育の充実などの経費も盛り込まれている

■一般会計の公債費と市債の残高〔単位:億円〕



▲　市の借入金である市債の残高（折れ線グラフ）は、平成16年度を境に減少しています

平成19年度の予算が決まりました。一般会計の総額は226億6000万円。平成18年度の同時期と比較すると2・1%の増加となりました。特別会計は210億5900万円で2・3%の増。水道の公営企業会計は18億8470万円で3・6%の減です。すべての会計を合計すると456億3770万円となり、1・9%の増となっています。

今年度も引き続き厳しい財政事情を反映して、緊縮型の予算となりました。健全財政を保つため、最大の支出である人件費を抑えるとともに、新規事業などへの投資的な経費や借入額を抑えていることが、平成19年度の一般会計の特徴です。

▼市税収入が増加

まず歳入の面では、国からの税源移譲（所得税）と景気の回復により、市税が約18%の増となり、全体の約3分の1を占めています。また、繰入金は前年の同時期の2分の1にまで減少したものの、市の貯金である基金を依然として取り崩さざるを得ない状況には変わりありません。

▼教育のソフト事業も充実

一方歳出の面では、岡山国体に向けて行った大規模施設の整備などでの借入金の返済が本格化し、公債費は過去最高の額となりました。また、社会保障といった義務的な経費も増加。こうしたことから可能な限り経費の削減に取り組みながら、限られた財源を市道の改良などに充てています。

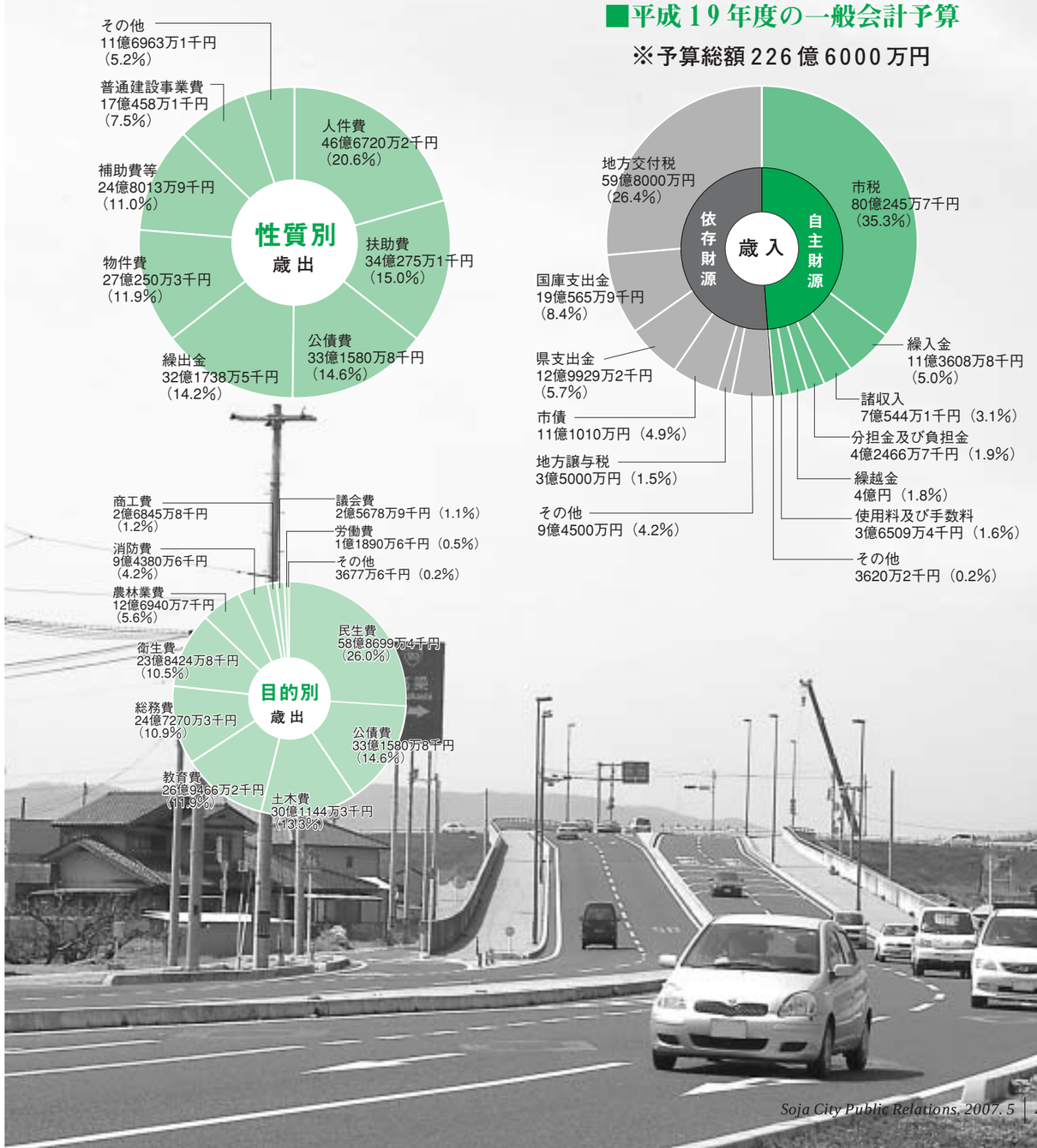
清音神在本線の改良事業や清音駅東側地区の整備は、合併特例債を活用して行います。

ソフト事業にも力を入れた予算となっています。具体的には、学校給食への地産地消の推進経費、町内会などの自主活動やごみ集積所の維持・美化活動への助成、地域の人材を活用した学校教育の支援、小学校での外国語教育の充実、救命用のAED（自動体外式除細動器）の小・中学校への配備などです。

問い合わせ　財政課（☎㉒8228）

◆各会計の予算　（単位：万円）

会　計　名	平成19年度 予算	平成18年度 予算	比　較
●一般会計	2,266,000	2,220,000	46,000
●特別会計			
国民健康保険	593,600	520,000	73,600
老人保健	642,300	646,000	−3,700
介護保険	429,200	402,000	27,200
農業集落排水事業費	61,900	83,300	−21,400
国民宿舎事業費	84,300	78,400	5,900
総社駅南地区土地区画整理事業費	69,000	78,400	−9,400
公共下水道事業費	225,600	251,000	−25,400
小　計	2,105,900	2,059,100	46,800
●公営企業会計			
水道事業	182,870	189,700	−6,830
工業用水道事業	5,600	5,900	−300
小　計	188,470	195,600	−7,130
合　計	4,560,370	4,474,700	85,670

■平成19年度の一般会計予算

※予算総額226億6000万円